

平成 29 年度 第 2 回 独立行政法人地域医療機能推進機構 滋賀病院 地域連絡協議会 議事録

日 時 : 平成 30 年 1 月 25 日 (木) 14:00 ~ 14:30

会 場 : 会議室

出席者 : ◎大津市医師会

木村 隆 会長 重永 博 副会長 西山 順博 学術部長 佐伯 善文 公衆衛生部長
(欠席) 高岡 篤 広報部長

◎JCHO 滋賀病院

来見 良誠 院長 有村 哲朗 副院長 菅井 亜由美 看護部長 大村 英幸 事務部長
大崎 隆志 医事課長 中野 良文 総務企画課長

議 事 : 司会 中野 総務企画課長

【司会】 只今より独立行政法人地域医療機能推進機構滋賀病院地域連絡協議会 開放型
病床運営委員会を開催いたします。
はじめに滋賀病院院長 来見より挨拶がございます。

【院長挨拶】

来見院長 : 当院ではこれまで地域医療に貢献するべく開放型病床の歴史を積んできました
が、利用者が限定されている状況もあります。ご指導のほど、よろしくお
願いします。

【司会】 続きまして大津市医師会、木村会長よりよろしくお願い致します。

木村会長 : 日頃は地域医療に貢献いただきありがとうございます。医師会として十分に
活用できていると言いますが、仕組みが大切だと考えております。一緒
に考えていきたいと思っております。

【司会】 各委員紹介

【司会】 本会は地域医療に貢献し、より良い病院運営に繋がることを目的としておりま
して、その取り組みを広く皆様にもホームページ等公開する事となりますので
ご了承下さい。早速ではございますが、開放型病床の利用状況につきまして当
院医事課長 大崎より説明させていただきます。

【議事】

1. 開放型病床の利用状況について（資料）

大崎医事課長：(P1) 紹介患者全体の状況について

初診患者は全体で 10,373 人であったが、その中で紹介患者数は 4,608 人であった。内訳としては診察紹介が 2,580 人、検査紹介が 2,028 人、昨年と比較すると 66 名減少している。全体としては横ばいの状況。紹介率は 59.2%。

(P2) 開放型病床の利用状況について

開放型病床 20 床に対する利用率は 48.6%。月平均利用医師数は 1.3 名、共同指導回数は 38.0 回、平均来院回数 31.1 回、延べ入院患者数 21.3 人、延べ在院日数 295.5 日、平均在院日数は 13.9 日であった。病床利用率は 50%を切っており、ご利用いただいているのは登録のうち 2 名。過去 5 年間でも 50%前後を推移している。

(P3) 診察紹介状況（科別）について

平成 29 年度の合計は 2,580 名、昨年比では 541 名増、月平均は 45 名増となっている。

(P4) 診察紹介状況（グラフ）

全体では内科系が 55%、外科系 45%

(P5) 検査紹介状況（検査別）

消化器内視鏡	627 件	-43 件
CT	656 件	-2 件
MRI	648 件	+1 件

平成 29 年度トータル 2,203 件、平成 28 年度比、年間 -60 件。月平均 184 件、昨年比 -5 件と横ばいの状況。

(P6) 検査紹介（グラフ）

CT 30%、消化管内視鏡 28%、MRI 29%が大勢を占める。

2. 開放型病床の運用について（意見交換）

木村会長：整形外科と循環器内科の件数が急激に増えているが要因はあるのか。

医事課長：昨年 4 月に大学より新しい医師が赴任し、その紹介が影響している。循環器内科は循環器内科の山岡救急部長の実績を救急科ではなく、循環器内科

に組み入れているため。

西山部長：大腸内視鏡を依頼する場合、すぐに検査をするのか。医大は診察を経てからだが、何かあったとき大丈夫か。

山元師長：同意書をしっかり取っているので問題ない。

重永副会長：共同利用医師が2名から1名に減っているが。

医事課長：従前より1名であったのが、一時期2名になっており、再び1名に戻った次第。

総務企画課長：利用者減少気味ですが、ご協力をお願いしたい。

【閉会の挨拶】

有村副院長：本日はありがとうございました。今後も開放型病床を活用し、顔の見える関係を築いていきたいと考えております。

【司会】 引き続き病院見学会よろしくお願ひ致します。

以上

病院見学会 議事録

「医師会との更なる連携を目指して」

日 時 : 平成30年1月25日(木) 14:30 ~ 16:30

会 場 : JCHO滋賀病院 講義室

出席者 : ◎ご出席の先生

大津市医師会会長 栗津診療所 木村 隆 先生
大津市医師会副会長 重松医院 重永 博 先生
大津市医師会理事 西山医院 西山 順博 先生
大津市医師会公衆衛生部長 佐伯 善文先生
上原医院 上原 栄之輔 先生
浜本内科 浜本 肇

(順不同)

◎JCHO 滋賀病院

来見 良誠 院長 有村 哲朗 副院長 菅井 亜由美 看護部長 大村 英幸 事務部長
安東 勝宏 部長 山岡 治 部長 中島 滋美 部長 松井 俊樹 部長 山本 和雄 部長
尾柳 大樹 部長 八木俊和部長 村上智子医長 種村雅人医長
山元 貴弘 医長 藤山 佳秀 顧問
大崎 隆志 医事課長 中野 良文 総務企画課長

議 事 : 司会 大崎 医事課長

【開会挨拶】

＜木村会長挨拶＞

本日病院見学会を企画するにあたり皆様の温かいご協力に感謝しております。
この後八木先生と種村先生からご指導頂けるということで楽しみにしております。
このような会を滋賀医科大学附属病院、大津市民病院、大津赤十字病院とさせて頂く機会がありますが、滋賀病院に来るとたくさんの先生方が参加しておられます。顔を見る関係が築けていることを実感し、毎回参加を楽しみにしております。
本日はよろしくお願い致します。

＜来見院長挨拶＞

本日は足元の悪い中、お集まり頂きありがとうございます。日頃より大津市医師会の先生方には大変お世話になっております。本日は当院の診療状況をご紹介させて頂き、今後のご紹介などの参考にして頂けると幸いです。

ひとつは外科の診療について、もうひとつは整形外科がこの4月より大きく人員変更があり、それに伴いどのような診療をしているか詳しくご説明させていただきます。
本日はよろしくお願ひ致します。

【講演】

◎ 「腹腔鏡手術の実際、良性疾患から癌まで」

外科 八木部長

＜質疑応答＞

質：どういふ方法で腹腔鏡の練習をしましたか？

応：京都大学坂井先生、滋賀医科大学の谷先生の前で講演、講義、画像資料などご教授頂きました。また腹腔鏡の経験が豊富な先生の手術に参加することで学ばせて頂きました。

質：術中に何らかのトラブルが起こったことはありますか？

応：あります。幸い大量出血などの大きなトラブルはありませんが、術中に明らかに状態がおかしいと判断した場合などは早めに腹腔鏡を中断し開腹手術に切り替えます。

質：腹腔鏡は詳細に観察できるのが素晴らしいところだと資料を見て改めて思いました。腹腔鏡は傷が小さく短時間で細かなところまで見ることでできる手術ですが、手術開始までの準備には時間がかかるものですか？

応：準備に掛かる時間は30分から1時間ほどです。通常手術の場合は準備の整った状態で問題なく始めることができます。二年前に初めて腹腔鏡で虫垂炎の緊急手術を行いました。

◎ 「滋賀病院整形外科のトピックス」

整形外科 種村医長

＜質疑応答＞

質：講演をお聞きしていると形成外科分野の症例のような印象もありますが、種村先生は形成外科の経験はありますか？

応：私自身の経験はありませんが、同じく整形外科の久我先生が手の外科と足の外科を専門とされています。

質：褥瘡の皮膚移植の症例についてですが、動脈瘤静脈炎の皮膚潰瘍でも移植は可能ですか？

応：可能です。

質：外反母趾の上に免疫細胞の感染を起こしている患者様の症例について、靴の摩擦などでなかなか炎症が治癒しないので他院の先生に相談したところ、感染を制御しないと治癒は難しいとのことでした。種村先生ならどのようにされますか？

応：感染の制御をしなければ治癒は難しいということについてはおっしゃる通りで、普通の靴では摩擦状態が続き治癒しないと思います。そのため、まずは治癒を得るために講演の中でもご紹介させて頂いたような負担のかかりにくい靴、装具を付けて頂くのが第一です。その後、感染が沈静化すれば手術を計画します。

質：種村先生ご自身は外反母趾の手術はされますか。

応：症状によりますが、手術可能な状態であればしています。

質：外傷後の難治性潰瘍の治療方法について詳しく教えてください。

応：まずはなかなか治癒の得られない症状に対して、悪い組織を除去する処置を行います。その上で、浸出液の持続は治癒には不利な状況であるため、傷の上に持続的に圧を掛けるパットを当てて浸出液を吸い取り続けることにより、治癒に有利な状態を作ります。この液体を吸い取る器具については保険適用期間が3週間であるため、器具の使用は期間内とし、その後皮膚だけであれば植皮術、奥の組織まで不十分であれば筋肉移植手術などの検討が必要となります。

【意見交換】

医師会：滋賀病院の訪問看護師は非常に優秀で、精神的にも肉体的にも負担が軽減されているとの患者様からの声を頂いています。急遽入院が必要となった場合も病床の準備など迅速に行って頂き非常に助かっています。

滋賀病院：当院の訪問看護ステーションは立ち上げてまだ間がありませんが、誠心誠意をもって勤めるよう指導を行っています。心強いお言葉に感謝します。今後ともぜひご利用頂ければと思います。

医師会：地域包括ケア病棟の機能について再度詳しくお話をお聞かせ下さい。

菅井看護部長：地域包括ケア病棟は現在50床で運用しており、利用率は85%ほどです。当院での急性期の治療が終わり在宅へお戻りになるまでの準備を整えて頂くための病棟です。一ヶ月の入棟が約40名ですが、その内の10名ほどが在宅療養をしておられる方で、そういった方の一時的なレスパイト入院やリハビリ目的での利用などが中心となっています。まだ認知度が低く、どのように利用したらよいか分からないという現状もありますが、介護福祉施設の利用が難しい、施設に入れなれないといった方について、在宅療養の準備をして頂く病棟としてご利用頂ければと思います。

医師会：地域包括ケア病棟は滋賀病院の特殊なシステムでしょうか。

菅井看護部長：平成26年に国内で新設された病棟です。これまでは急性期の治療が終わった患者様は療養型という慢性期の病棟に移るしかなかったのですが、その中間の回復期の機能を持つ病棟です。地域包括ケア病棟では病名の制限がありませんので、これまで入院が難しかった患者様についてもご利用頂けます。大津市内では日赤志賀病院、琵琶湖大橋病院に同様の病床があります。

【閉会の挨拶】

＜重永副会長挨拶＞

本日はJCHO滋賀病院の皆様、病院見学会を開催頂きありがとうございます。滋賀病院の先生方は非常に友好的で、これだけ大勢の先生方にご参加頂ける見学会はない

ので、非常にありがたく思っております。顔を見る関係を作っていくためには、こういった機会を持つことが一番です。

大津市医師会では様々な講演会やセミナーを行っております。外来診療などの都合で難しいこともあるかとは思いますが、是非とも先生方にご出席頂ければと思っております。また医師会には9つの部がありますので、滋賀病院の先生方にも部員として事業に参加して頂き、医師会の会員と交流して頂き、そこから病診連携に繋いでいく、そういったお互いが顔を見られる関係を今後とも築いていきたいと思っております。こういった機会を増やしていけたらと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

本日は誠にありがとうございました。

<有村副院長挨拶>

本日は大津市医師会様におかれましてはJCHO病院見学会の企画、開催をさせていただきありがとうございます。木村会長、重永副会長はじめ、諸先生方に改めて御礼申し上げます。本日は「医師会とのさらなる連携を目指して」ということをテーマとし、外科の腹腔鏡手術ならびに整形外科のトピックスを講演させて頂きました。患者様がおられましたらご紹介頂けると幸いです。

また、これより訪問看護ステーションをご案内させて頂きます。当院の訪問看護ステーションは大津市の在宅医療連携の3つの拠点のひとつとして位置付けられておりますが、まだまだ発展途上であるということをご理解頂ければと思っております。また先ほどお褒めの言葉を頂きましたが、当院訪問看護師の在宅医療に対する熱意、情熱を理解して頂ければと思っております。

本日の病院見学会が医師会とのさらなる連携の一助となるよう祈念いたしまして、御礼の言葉とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

以上